

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 4月30日予定

事業所名 吹田市立こども発達支援センター杉の子

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	74%	11%	仕切りなど子供が落ち着いて過ごせる工夫や園庭、ホールなど調整しながら使用している。	年長児になると体格も大きくなりクラスの部屋が狭くなるので工夫が必要。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	重度加配を含め1クラス4名の職員がいる。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	子供の姿に合わせた環境調整 個々の持ち物マーク化 視覚支援など工夫	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	74%	7%		トイレの床が冷たく改善が必要。園も老朽化ははじめていますので安全点検をきちんとして修繕をしていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	89%	11%	給食事故防止のため複数人で確認 職員会議 L会等で実施	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	93%	0%	評価表だけでなく保護者会が保護者の要望をまとめ改善できることを一緒に考えている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	93%	0%	園総括会議で話し合い 次年度に生かすようにしている	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		今後考えていく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	93%	7%	3課研修、保育幼稚園室との20講座研修 各自学習の時間をとっている 園内での研修(年間5回)	機会があれば参加しスキルアップしている。Zoom研修が増えているのでしやすい環境を整える
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	93%	0%	個別支援、療育会議で担任専門職で話し合っている クラスから喫食状況を毎月給食反省で提出してもらっている。 専門職と共にアセスメントシートをもとに計画、立案している	毎月の子供の食事状況を把握
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	アセスメントシート使用	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	89%	11%		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	訓練職とも話をしながら進めている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	66%	0%		
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	クラスだよりで計画を立てているいろいろなことを経験できるように考えている。クラスだよりで知らせている	コロナ禍でできないことが多いがどういことならできるかを常に工夫していく
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	食事面では栄養士、給食室が喫食状況を全体把握。偏食等に個別で気になる子は担任と相談し計画を立てている。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	93%	0%	給食は朝礼時献立確認。配膳時複数で確認療育は月案・週案・日案シートを作成し支援内容、役割分担、確認をしやすいようにしている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	93%	0%	終了時その日の反省と翌日の打ち合わせをしている。	月ごとなどもう少し大きいスパンでの反省も考えていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	気づいた点、気になる点を確認し改善	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	食事は職員会議アレルギー会議摂食会議など定期的な会議で確認。年3回の個別支援計画を作成し職員間でも確認し合っている。	
	関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	89%	11%	
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		100%	0%	担任、看護師を通じて把握	
23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		100%	0%	担任、看護師を通じて把握	
24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		100%	0%	担任、看護師を通じて把握	
25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		100%	0%	担当者を決めるとともに各クラス担任が情報共有にあたっている	保育所・認定こども園の一部は献立交流あり職員がお互い見学に行き話ができる機会を持っていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	97%	3%	年長クラスで担当を決めて連携をとっている。相互で実習に行く機会を持っている。	食事支援について学校や他市町の児童発達支援センターと情報共有をどのようにしていくか今後の課題
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	97%	3	見学を行っている。	今後は給食の状況を見学に行く。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0%	100%	コロナの状況が変われば再開予定	感染症対応で実施できていない。保育園、幼稚園と連携しながらどんなやり方ができるか考えていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	33%	77%		今年度は参加しにくい状況だった
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	できる限り話す時間を取り保護者と話す機会を持っている	日々は子供の単独通園なので話をすることが難しいが、保護者が交流会や保育参加で園に来られるときには話す時間を持つように工夫をしている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%	職員会議で支援内容を聞いている ペアレントプログラムを試行実施した	昨年度試行し、保護者からもよかったとの感想があったので今年度もペアレントプログラムを実施していく
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		わかりやすい説明ができるようにしていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		わかりやすく話ができるよう、クラスや会議で学び話し合うことも必要。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	ノートなどで質問があれば担任だけでなく、栄養士、看護師など内容に合わせて対応している。 食に関する相談や悩みがあれば対応している	いろんな職員が子供や保護者の姿を見ているので、なかなか保護者から発信しにくいなど気づいたことは園で共有していく用気をつけていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	82%	18%	コロナで十分にはできていない	コロナでもできるだけ保護者間の連携が取れる工夫。保育参加を2日にして半分ずつ来てもらう。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		感染症拡大防止の関係で保護者に園に来てもらう機会が減っているが園の様子を知ってもらい保護者が相談しやすい工夫をしていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	園だより・クラスだより・保健だよりを発行	何かあった時に園から一斉配信できるようなシステムが必要
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	個別に対応	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		新型コロナウイルス感染症防止の観点から難しい状況である

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	80%	20%	月1回避難訓練の実施 AED訓練 看護師中心に職員に周知徹底	防犯マニュアルの作成が必要 いろんなケースを想定して職員がイメージを持って取り組めるようにしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	月1回避難訓練の実施 備蓄の確認	月ごとに反省しどんな訓練が必要か次に生かすようにしている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	看護師が把握し職員に伝えている。職員がわかりやすいように整理されている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	月に一度のアレルギー会議で保護者と確認をしている	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	L会で把握	職員がヒヤリハットを出しやすく学びになるように会議で話していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	82%	18%		こども発達支援センターで防止委員会が設置され研修をセンター内で行う
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	73%	37%	会議で確認	どのような場合が身体拘束にあたるのか職員が学び保護者に説明をしていく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。